

XXXXXXXXXX ①

1. 序論

AI時代の根本的な問いと新たな思惟の必要性

AIの発展と人間の未来：倫理的課題と政策的対応 . 序論

四つの相関的思惟



AI時代の根本的な問い

- 問いは技術より人間についての問い
- 人間は意味を作る総体的存在
- 相関的思惟＝連結を共に見る思考

技術的特異点の敷居、人間の座

- AIが創造・意思決定へ深く浸透
- 「何が人間を特別にするのか」
- 選択する存在から選択される存在へ

分析的思惟の限界と相関的思惟の台頭

- 分析的方法が複雑な問題に限界
- AIが既存の亀裂を増幅・可視化
- 東アジアの相関的思惟が代案

研究の目的と方法

- 道・仏・儒・西教の四段階の枠組み
- ミメーシス・ミュトス・ロゴス・テオス
- 東西思惟の統攝を志向

1. 序論

特徴	分析的思惟（主に西洋）	相關的思惟（主に東洋）
主要な推論方式	還元主義的、ボトムアップ	総体的、トップダウン（または全体優先）
部分と全体の関係	部分を通じて全体を理解（部分の総和＝全体）	全体の中で部分を理解（全体は部分の総和より大きい）
因果関係の処理	線形的、直接的な原因・結果	ネットワーク化された、共鳴的、相互的な影響
脈絡の処理	脈絡から切り離して分析	脈絡依存的、脈絡が意味を規定
論理の活用	形式論理、演繹／帰納論理	類推論理、隠喩、象徴
変化観	線形的、予測可能（または幾何級数的）	循環的、変形的、螺旋的
曖昧さに対する態度	明確性を選好、曖昧さを回避	曖昧さを受容、逆説を包容
主要な目標	予測、統制、効率性	調和、適切性、均衡
中核となる関連概念	科学的方法論、データ分析、客観性	陰陽、五行、感応（感應）、気（氣）、縁起（縁起）
強み	精密性、明確性、特定問題の解決能力、技術発展の原動力	複雑系の理解、意味の創出、適応性、長期的観点、倫理的洞察
AI時代の限界	システム的問題、倫理的ジレンマ、意味の喪失、人間疎外への脆弱性	定量化および即時的予測の困難、科学的検証の伝統的な困難（現代科学との接点を模索中）